

共同利用・共同研究に関わる各種お知らせ

運営会議よりお知らせ

分子科学研究所は分子科学分野コミュニティに広く開かれた運営を行うために、所内11名、所外10名のメンバーからなる運営会議を所長の下に設置しています。法人化前は運営協議委員会と呼ばれていました。この会議では研究教育職員の人事、共同利用・共同研究等の研究所を運営する上で重要な事項について審議します。所外10名の候補は主要分子科学分野コミュニティ（現在は分子科学会、日本化学会、日本物理学会、錯体化学会、日本放射光学会の5学会）から推薦を受けたメンバーが参加する学会等連絡会議において選考されます。本年度、以下に示すように、所外メンバーの半数の5名が交代になりました。よろしくお祈いします。なお、*印は運営会議の下に置かれた人事選考部会のメンバー（運営会議メンバー所内5名、所外5名からなる）です。他に運営会議の下には共同研究専門委員会（運営会議メンバー以外も委員となる）がありますが、部会とは違って専門委員会の検討結果は運営会議本会で最終的に審議することになっています。

平成22年度～平成25年度運営会議所外メンバー（新規）

上村 大輔 慶應義塾大学理工学部教授	山縣ゆり子 熊本大学大学院生命科学研究部教授
* 佃 達哉 北海道大学触媒化学研究センター教授	山内 薫 東京大学大学院理学系研究科教授
* 森 健彦 東京工業大学大学院理工学研究科教授	

任期は2年ですが、以下は今年度より2期目を務められる方々です。追記したように本冊子にはご意見等を寄稿いただいております。

平成20年度～平成23年度運営会議所外メンバー（継続）

* 江幡 孝之 広島大学大学院理学研究科教授	* 山下 正廣 東北大学大学院理学研究科教授（分子研レターズ60号）
篠原 久典 名古屋大学大学院理学研究科教授	渡辺 芳人 名古屋大学副総長（研究・国際企画関係担当）（分子研レターズ61号）
* 富宅喜代一 神戸大学名誉教授（本号）	

なお、以下は退任された運営会議所外メンバーの方々です。これまでの多大なご支援、ご協力をありがとうございました。今後ともよろしくお祈いいたします。

平成18年度～平成21年度運営会議所外メンバー（退任）

* 榎 敏明 東京工業大学大学院理工学研究科教授（分子研レターズ57号）	中嶋 敦 慶應義塾大学理工学部教授（本号）
加藤 昌子 北海道大学大学院理学研究院教授（本号）	* 山下 晃一 東京大学大学院工学系研究科教授（本号）
関谷 博 九州大学大学院理学研究院教授（分子研レターズ61号）	

共同研究専門委員会よりお知らせ

分子科学研究所が公募している課題研究、協力研究、分子研研究会、および若手研究会については、共同研究専門委員会において申請課題の審査を行っています。それぞれの公募の詳細については分子研ホームページ（<http://www.ims.ac.jp/use/>）を参照いただくこととし、ここではこれまでとは変更になった（変更が予定されている）点をお知らせしたいと思います。

分子研研究会の開催にあたっては、従来は海外からの参加者への渡航費補助は認められていませんでしたが、平成22年度（後期）分の申請からは可能となりました（国内に滞在中の外国人は従来通り国内扱い）。ただし、国内参加者に対する補助は、最低でも予算の半分以上は確保しないといけないため、渡航費の補助ができる対象者は渡航費が国内並みであるアジア地区からの参加者に限定されています。渡航費が嵩む欧米の研究者の招へいを含む企画は岡崎コンファレンス枠に応募して下さい。さらに、従来型の研究会の他に、分子科学関連の学協会等が共催・企画して開催する分子研研究会の申請も認められることになりました。

これらの変更を反映して、平成22年度（後期）分以降の申請においては、研究会を下記の3種に区分したうえで公募を行います。研究会の申請は、原則は前期・後期の年2回ですが、随時の申請にも対応いたしますので、所内対応教員にご相談下さい。是非、多数の皆様からの申請をお願い致します。

【研究会の種別】

- ア.分子研研究会（一般分）：国内の研究者が集まるもの
- イ.アジア連携分子研研究会：アジア地区の研究者が数名含まれるもの
- ウ.学協会連携分子研研究会：分子科学関連学協会等が共催するもの

また、共同研究専門委員会において下記に示すような事項が検討されています。これらに関して、皆様からのご意見、ご提案を頂きたいと思えます。共同研究専門委員会委員長（aono@ims.ac.jp）宛に、皆様のご意見・ご提案をお寄せ下さい。

- (1) 協力研究については、現在は前期、後期に分けて申請を受け付けており、継続課題の場合でも、半年に一度申請書を提出する必要がある。これまでの協力研究の例では、少なくとも2期（1年間）は継続しているものが大部分であることを考慮すると、従来型の申請とは別に、前期分を申請する際に、研究期間を1年間とした通年タイプの申請も設定してはどうか？
- (2) これまでの協力研究では所内1研究グループ、所外1研究グループを前提に共同研究を進めるものに限ってきたが、所外の複数グループのメンバーを含む共同研究の提案も受け付けてはどうか？
- (3) 課題研究は協力研究の制限を緩和した大型の共同研究枠であるが、最近、申請が途絶えている。上記（2）のような協力研究の強化を行うと課題研究の存在意義がさらに薄れる。課題研究を活性化するためにその在り方について、見直す必要がある。
- (4) 小規模な国際ワークショップとして分子研創設来、開催してきた岡崎コンファレンスは共同研究専門委員会を通さず、別途、主幹会議で採否を審議してきたが、今後は、名称は維持しつつも、分子研研究会（国内一般、学協会連携、アジア連携、国際）という枠組みで応募を募るようにしたらどうか。分子研研究会枠での相乗効果で全体が活性化できるのではないか。
- (5) 新規申請を随時に受け付けるために特別に設定した随時受付制度が、本来想定していなかった継続申請（申請を忘れるなどで遅くなるケース）でも使われるようになってきているため、何らかの対策を考える必要があるのではないか。

平成21年度（後期）共同利用研究実施状況

協力研究	「RISM理論を用いたタンパク質の水和構造についての研究」を始め59件
UVSOR施設利用	「X線照射により生成する欠陥の発光測定（2）」を始め77件
施設利用	「金属錯体を構成要素とする有機無機複合材料の磁性測定」を始め38件

平成21年度（後期）分子研研究会

開催日時	研究会名	提案代表者	参加人数
2009年11月6日（金）	生体分子イメージングの技術開発とシステムズバイオロジー	小澤 岳昌 （東京大学大学院理学系研究科）	71名
2009年10月30日（金） ～31日（土）	新規な誘電体最前線——電子と強誘電性	池田 直 （岡山大学大学院自然科学研究科）	40名
2010年3月23日（火） ～24日（水）	拡がるロドプシンの仲間から“何がわかるか” “何をもたらすか”	須藤 雄気 （名古屋大学大学院理学研究科）	72名
2010年2月19日（金） ～20日（土）	分子集合系におけるポテンシャル空間の制御～その錯体化学的アプローチ～	張 浩徹 （北海道大学大学院理学研究院）	40名
2010年2月19日（金） ～20日（土）	シンクロトロン光源技術の現状と展望	加藤 政博 （自然科学研究機構分子科学研究所）	28名